

# 広報じょうめ

発行所 秋田県五城目町役場  
編集 文書広報課 電話(01885)②代 2100番  
印刷所 湖東印刷所 電話(01885) ② 2430番  
一部 35円 郵便番号 018-17 毎月 1日・15日発行



転作の厳しさに負けないで

## きびしい転作を機会に

—あしたの明るい農村をめざして創意工夫を—

町の農業指導センターが中心になつて、今さかんに転作面積の確認調査をしているが、今年度五城目町に示された第二期水田利用再編対策の転作対象面積は、三〇二㌶(富津内地区田地面積に相当)である。このうち、五十五年度冷害緩和分四㌶を控除されるので実質二九八㌶となつてゐる。

### 転作作物大豆 八〇割

五十六年度の転作作物別の見込み面積の割合は次のようになつてゐる。

- ・特定作物Ⅱ大豆八〇割、飼料作物三・二割、飼料用青刈稻〇・八割、小麦三・六割、そば四・四割
- ・一般作物Ⅱ野菜四・五割、小豆二・〇割、たばこ〇・一割、花木〇・一割、林地三・〇割、水田養魚三・〇割
- ・○割

◎その他他〇・五割

◎永年作物Ⅱ果樹〇・一二割

### 集団計画転作が有利

出荷奨励金は、前年より若干減額される見とおしになつてゐるが、前年と同じく計画転作を行つた集団に対して、十アール当たり千二百円、関係農家に十アール当たり千八百円の推進費と、大豆一俵当たり千二百円の出荷奨励金の助成がある。

いずれにしても、ぼう大な面積なので、たんぽの条件や生産費の軽減、流通問題などを効果的に解決するためには、団地化された転作が最もよいのではないかとする考え方から、町では、農協をはじめ各農業団体との協力をあおぎながら進めているところである。

### 拍車をかける消費減少

米の過剰は、昭和四十二年から四十四年まで連続の豊作で政府保有米がピークに達したため、米の生産調整が本格的に取りあげられたのは、昭和四十六年からであった。五十年をめどに需給の均衡をはかる施策を展開したが、この間四十八年の世界的な異常気象なども手伝い、おおむね所期の目的を達したものとみられていた。しかし、その後も依然として米の消費量の減少が続き、現在も年平均二割程度の減少がみられ、米の過剰は食糧管理法の改正に着手させる基調になつてゐるほどである。

いざれにしても、ぼう大な面積なので、たんぽの条件や生産費の軽減、流通問題などを効果的に解決するためには、団地化された転作が最もよいのではないかとする考え方から、町では、農協をはじめ各農業団体との協力をあおぎながら進めているところである。

**拍車をかける消費減少**

米の過剰は、昭和四十二年から四十四年まで連続の豊作で政府保有米がピークに達したため、米の生産調整が本格的に取りあげられたのは、昭和四十六年からであった。五十年をめどに需給の均衡をはかる施策を展開したが、この間四十八年の世界的な異常気象なども手伝い、おおむね所期の目的を達したものとみられていた。しかし、その後も依然として米の消費量の減少が続き、現在も年平均二割程度の減少がみられ、米の過剰は食糧管理法の改正に着手させる基調になつてゐるほどである。

あまい長期見とおし  
五十年から、水田利用対策が打ち出され、五  
十三年からはまた、水田利用再編対策が講じられるな  
ど、米の生産抑制策が矢継ぎ早に出来たが「これは  
政府担当省の見とおしの甘さのなにものでもない」と  
いうのが農業に携わる者の偽りない心根である。  
しかし、被害者意識をもつことで解決されるほどこ  
の問題の根は浅くない。逆境を機会に農産物の総合的  
な自給力をつけるための創意工夫に、あくなき追求を  
続けたのがよく安い秋田米を、そして栄  
養価の高い飼料獲得のために、関係機関はもとより農  
家自身が命をかけてほしい。あしたの明るい農村を築  
きあげるためにも。

# 今年の町政

## 魅力ある田園都市をめざす

昭和五十六年度一般会計予算総額は、四十二億四千五百万円で、前年度当初予算と比較すると、一六・七倍の伸び率となっている。これを減入面からみると、町税は自然増を見込んで、前年度当初より六・六倍増の五億三十六三千円を計上している。

地方交付税については、前年度決算見込み額のおおよそ四・一倍増の一億四八四万円を計上している。

なお歳入の中でも占める町債の構成比は一六・七倍となっており、前年度当初の一七・二倍を〇・五倍下回っている。

今年の町政は、役場庁舎の建設、水田利用再編対策を柱に①市民福祉の増進②生活環境の整備③教育振興④道路網の整備促進⑤産業の振興など五点を中心にして、「活気ある住みよい、暮らしよい、魅力ある田園都市づくり」をおしすすめることになっている。以下施政説明からそのアウトラインを述べてみる。

(三月の議会から)

### 福祉医療費八・二倍の伸び

老人及び福祉医療費(一億一千二〇一万五千円)は、前年度に比べて八・一倍の増となっている。

寿祝金、敬老祝金は前年度と同じく実施するほか、老人専用居室整備資金の貸付、一人暮し老人や生活保護家庭の老人で、扶養能力がなく、付添いが必要な方々に対しての、入院介護扶助費の支給は前年度と同じく行いたい。

### 今年度から三級障害者にも

身体に障害をもつているみなさんの福祉対策として、一級障害者は一人三千円、二級は一人二千円、今年度から新たに三級障害者を対象に一人千円と、それぞれ扶助費を支給する。

このほか、社会福祉協議会に、三四一萬九千円を補助、町内の保育所、保育園の六施設に対しても、六七六万二千円を負担すること

ている。

### 庁舎建設後にごみ処理施設

ごみ処理場の建設用地については、五十六年度にその選定に努め

役場庁舎完成後、ごみ処理施設に取組みたいと考えている。

それまでの間、現在の収集処理方法で対処するよりいたしかたないので、よろしくご協力を願い

したいところである。

生活排水路については、農村総合整備モデル事業で、西野、野田脇乙に集落排水路を四千九三〇万円で行うほか、町単独事業で、田町裏通り下水路、七倉都市下水路、畑町支線、戸村用水路添い污水排水路工事を四一四万円で行う計画である。

### 羽黒前地区整理調査費に三二七万円

羽黒前地区土地区画整理事業については、これまで関係者との話し合いや意向調査のとりまとめ平

社会教育については、町民の要請に応えるべく「届ける社会教育」に力点をおきながら、町民一人ひとりが生きがいを目指して、自主的、主体的に遊び合う生涯教育の一層の進展を図りたいと考えである。

そのため、いつどこでも学習できるよう必要な資料や図書等を希望者にお届けするほか、各種町民講座の開設、全町公民館大会の開催、新成人を祝う若人のつどい、青年の海外および国内研修、青少年の仲間づくりを通して地域住民との新しい連帯をつくる青少年地域活動の推進、さらに各地域の学習の場である公民館分館の整備を図っていただきたい。

高千穂舗装新設事業は、計画延長九七三延のうち五三二延の舗装工事を終了しており、五十六年度は、二千七九〇万円をもって残り延長四四一延の舗装を行いたい。

これで、この区間は全線完了する。

### 五年計画十億円

昨年度計画策定町村に認定された地域農構事業については、五十六年度から五ヵ年で、約十億円の事業が行われることになるが、その内容は、カントリーエベーラーの建設と、帝釈寺地区田地二ヶ所の建設地区畠地四ヶ所、合せて六ヶ所の共同施行で行う土地基盤整備事業を計画しているところである。

### 大手線外十四路線一・八八七延

#### 側溝改良工事

野田・岡本線外三路線三七五延の事業を七千一四万六千円で行うことになっている。これは

支店に二百万円、木工産地化育成資金として五城目信用金庫に三百万円をそれぞれ預託し、その原資をもとに町内商工業者に融資の途を開き商工業の振興を図りたい。

### 産業の振興

商工对策については、中小企業振興資金として、秋田県信用保証協会に五百万円、商工中金秋田

支店に二百万円、木工産地化育成

資金として五城目信用金庫に三百

万円をそれぞれ預託し、その原資

をもとに町内商工業者に融資の途を開き商工業の振興を図りたい。

### 北口線外七路線四七三〇延

#### 舗装補修工事

北口線外七路線

四七三〇延

側溝補修工事

### 広ケ野下山内線外一路線一七〇延

#### 舗装新設工事

広ケ野下山内線外一路線一七〇延

舗装新設工事

### 五六年計画十億円

#### 町道新設改良補助事業

町道新設改良補助事業

### 五六年計画十億円

#### 高千穂舗装新設事業

高千穂舗装新設事業

### 五六年計画十億円

#### 五六年計画十億円

五六年計画十億円

## 燃やすまい山は緑に萌えるもの

豊かな緑は国土を守り、豊かな生活を約束してくれます。この緑をみんなで大事に育てましょう。雪消えと共に入山の機会が多くなりましたので次の点にご協力してください。

- ① たき火をした時は、跡始末を完全にすること。
- ② たばこの吸殻は、必ず消すこと。
- ③ 車からたばこの吸殻を投げ捨てるなこと。
- ④ 強風又は乾燥時及び枯れ草のある危険な場所では、マッチの使用やたき火はやめること。
- ⑤ 火入れの許可を必ず受けること。



大いなる未来につなぐこの緑

五城目町署  
五城目営林  
五城目森林組合











